

2010年度 入試問題分析シート

北海道大学

前期日程

科目

国語(古文)

総括

試験時間	120分	満点(配点)	150点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題			
				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

<総論>

中世の擬古物語からの出題。設問は、例年通り現代語訳と記述型の説明問題が中心となっている。文脈の理解に重点が置かれており、出家に踏み切ろうとする男主人公と、それにすがりつこうとする女主人公の葛藤を理解することが求められている。

<合格への学習対策>

文法、語い、古典常識などの基本的な学力を身につけること、また、読み取った内容を要領よくまとめる力を養うことが重要である。今年は和歌の出題はなかったが、和歌を含む文章も頻出であるから、修辞を含めて和歌の理解を深めることも重要である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	物語(擬古物語)	作者不明『しのびね物語』	中世の擬古物語は、昨今の入試ではよく出題されるが、北大では物語文学の出題は久しぶりである。それほど読みにくい部分はないが、会話の裏にある人物の真意を正確に読み取ることが要求された。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	現代語訳。「心と」「大人し」「とかく」「こしらふ」など、基本的な語い力を問う。	やや易
	問二	記述	要点説明。設問の要求に合う箇所を中納言の発言から探し、解釈する。	やや易
	問三	記述	心理説明。傍線部の内容を前後の文脈と関連させつつ説明する。	標準
	問四	記述	理由説明。「いとど」に着目しながら、傍線部に至る中納言の言動や、それに応じた姫君の心の動きを説明する。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。